

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

卒業、おめでとうございます

3月19日（火）は、祇園小学校となって18回目の卒業式です。今年度は計74名の子どもたちが小学校を巣立ちます。祇園小学校で学んだことに自信と誇りをもって、それぞれの進学先でも自分らしく輝いてほしいと願っています。

進学、進級に添えて

まもなく今年度が終わり、子どもたちはそれぞれ進学・進級します。新しい学校・学年へ今の自分をつなぐとともに、つなぎめであるのりしろの部分大切にしながら成長を遂げていってほしいと願っています。そのためには春休みの過ごし方も大切です。「早寝・早起き・朝ご飯」で時間を有効に活用し、先への見通しをもって意図的・計画的・継続的な過ごし方をしてほしいと思っています。

また、進学や進級への期待や希望と同時に不安もあるかと思います。何かありましたら遠慮なく学校へご相談ください。

ご愛読、ありがとうございました

今年度の「校長だより」は、本号が最後です。35回に渡り私なりの思いや考えをお伝えしてまいりました。また、「祇園歴史の旅」のコーナーでは、学校や地域の歴史を紹介してきました。この1年間のご愛読に感謝をしながら、本年度の最終号を閉じます。

祇園歴史の旅（その35）「佐世保要塞司令部と川原田弾薬庫」

中部地区町内協議会設立25周年記念誌（平成20年発行）、佐世保史談会会員の筒井隆義さんの記念エッセーより抜粋。「海軍軍港の設置に伴い、港湾、市街などを一括して守備する全般を担う「佐世保要塞司令部」が光月町に設けられたのは明治33年（1900）8月でした。当初、保立町（現在は万徳町）にあった陸軍佐世保要塞砲兵連隊内で準備をはじめ、庁舎を建設してから移ってきました。

明治36年からは佐世保築城部支部、佐世保兵器支廠を併設していましたが、これは事務だけを取り扱いました。広大な敷地を持ち日露、第一次大戦、そして太平洋戦争に際し重要な役割を果たしました。しかし、海軍と異なり一般市民との接触はほとんど無く、いつもひっそりとしていました。太平洋戦争の開戦後、近隣住民を司令部内に招き、スパイ防止の国策映画上映を催す交流があった程度です。

川原田弾薬庫は、佐世保要塞砲兵大隊が使用する臼砲（きゅうほう）、榴弾（りゅうだん）砲、加農（カノン）砲に使用する弾薬を収容していました。場所は西高梨の旧名切免字川原田。須佐神社の北側2120坪、約7000㎡の広さがありました。

周囲は鉄条網をめぐるし、赤煉瓦の弾薬庫は2mほどの土堤で囲まれ、その上を24時間、銃を持った衛兵が巡回警備していました。当時は光月川の上流域で、屋なお暗い森が繁る人里から離れた土地でした。

須佐神社は古来『穴妙見』と呼ばれる古い信仰形態のお宮で、仏教的には妙見菩薩、神さまでは妙見神と呼ばれます。神仏習合の体現者である修験道の行者、つまり山伏とゆかりが深く、いつの時からこの一帯に真言宗の寺があったのではないかと想像させます。妙見菩薩は北極星とそれを取り巻く北斗七星を表す仏で、神秘的な岩屋を神殿とするこの地にふさわしい神（本尊仏）です。

高天町の町名の由来となった高天宮（明治維新後に神社）は、いま須佐神社の一角に合祀されています。もとは要塞司令部の北にあった岩山に祀られていました。この神社は、『大村郷村記』にあるように『肥の前州（ひのまえのくに）彼杵郡の鎮守なり』、つまり佐世保市から長崎半島の野母崎までの広大な土地を守護する産土神なのです。

祭神は国産みのイザナギ、イザナミ、ニニギ、コノハナサクヤヒメ、ウガヤフキアエズ（神武天皇）、玉依姫で、大村氏の祖とされる藤原直済の霊も副祭されています。」

次回（来年度）は、「祇園町と祇園宮」と題して、祇園宮などの神社をご紹介します・・・。